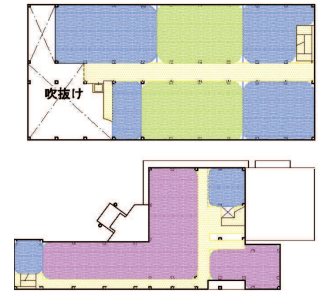
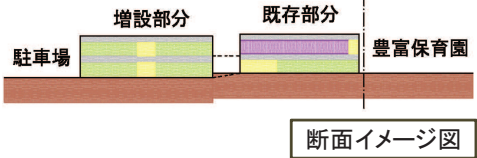
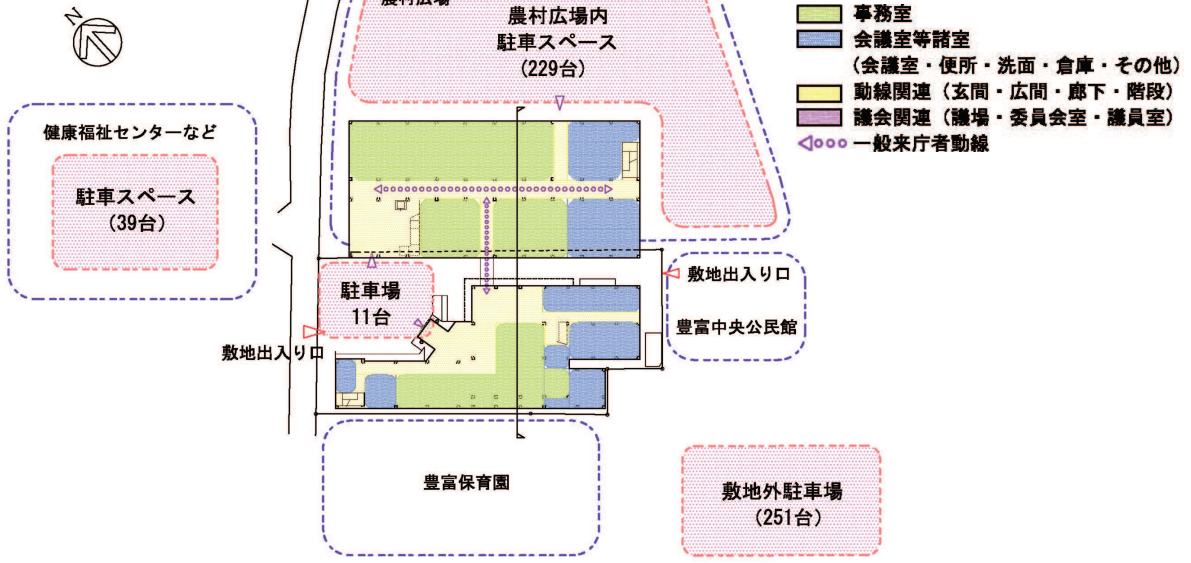


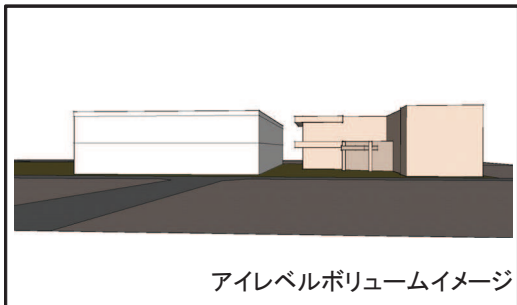
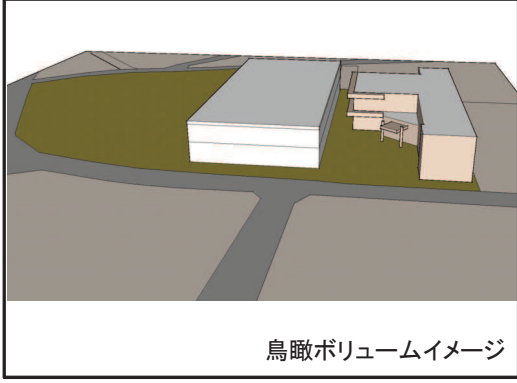
○豊富庁舎 2階案



用途	既存部分	増設部分	合計
事務室	419	1,598	2,017
会議室等諸室	557	1,215	1,772
動線関連	747	840	1,587
議会関連	624	0	624
合計	2,347	3,653	6,000

用途地域等	非線引き区域
建蔽／容積率	70／200%
日影規制	—
その他	—
敷地面積	10,859m ²

敷地内駐車台数	240台
共用可能駐車台数	39台
敷地外駐車台数	251台
敷地外駐車必要面積	6,275m ²



項目	金額	備考
増設部分建設費	1,450百万円	渡り廊下・外構工事費含む
既存部分解体費	-	福祉センター・車庫等
既存部分改修費	246百万円	
耐震補強費	-	
敷地外駐車場土地取得費	87百万円	外構工事費含む
1.イニシャルコスト 小計	1,783百万円	
増設部分修繕コスト	1,327百万円	
既存部分修繕コスト	1,717百万円	建替え1回含む
2.ランニング(ハード面) 小計	3,044百万円	／50年間
増設部分コスト	1,288百万円	
既存部分コスト	827百万円	建替え後含む
3.ランニング(光熱費等) 小計	2,115百万円	／50年間
LCC(50年間)合計	6,942百万円	

コメント
 ・北側農村広場を計画敷地と設定した為、敷地規模・形状が整形で、施設計画として広がりがある計画となった、しかし、立地性(人口重心・公共交通機関等の不便)利便性や、既存敷地と農村広場で敷地高低差が有り機能性(バリアフリー)での評価が低くなった

		項目	評価基準	豊富庁舎 2 階案	
(1) 経済性	適正コスト	イニシャルコスト計	・工事費の抑制	・概算1,783百万円	
		50年間ランニングコスト計(ハード整備)	・コストの抑制	・概算3,044百万円	
		50年間ランニングコスト計(光熱費等)	・コストの抑制	・概算2,115百万円	
(2) 活用性	立地場所	まちづくりの展開性	・開発の余地と周辺環境等を勘案する	・笛吹川都市計画：非線引き区域 ・庁舎周辺は主に公共用地	
		上位計画との整合性	・整合性の有無と必要な対策	・県マスタープラン：該当地区等なし ・市マスタープラン：地域生活拠点	
		周辺公共施設との連携	・周辺に連携可能性がある公共施設が存在するか	・中央公民館、健康福祉センター、保健センター、農業者トレーニングセンター等近接	
	利便性	敷地規模・形状 駐車場確保	・既存敷地と利用可能周辺施設の敷地面積と敷地形状と形態により判断する ・敷地内、または敷地外での駐車台数確保状況	・現況の面積では整備不可能なため、農村広場の敷地の利用を想定する ・敷地内：240台、共用部：39台、敷地外：251台	
		人口重心との距離	・人口重心との距離	・約3.8Km	
			・JR最寄り駅との距離	・東花輪駅：4.6Km	
			・道路網(山梨環状道路・甲府市川三郷線など)	・主要道路網からは離れ、主要施設との連携性が悪い	
			・総合医療施設(山梨大学付属病院)	・約5.5km	
			・大規模集客施設	・イオンタウン：約5.0km	
			・リニア駅予定地(市外)	・約5.9km	
・現状の利用人数	・1,900人/年				
利活用	不採用施設・敷地の有効活用	・地域実態マップを活用して確認	・他2施設共通：窓口、地域振興、交流機能等を検討する ・周辺施設の機能の補完、連携等を併せて検討する		
(3) 環境配慮	環境配慮	環境負荷軽減	・自然採光、換気、高効率な設備機器等を採用できるか	・自然採光、換気、雨水利用等を配慮した施設計画とする ・自然換気に吹抜けが活用できる	
		周辺への影響	・統合庁舎整備による隣地に落ちる影の影響 ・増設施設の階数・高さ・形状など周辺環境への影響の確認をする	・増設後の隣地への影の影響が多少増えた(+約600㎡) ・増設部分が2階建てで、周辺環境が調和がとれる	
	環境利用	再生可能エネルギーの利用	・自然エネルギーの設置可能な場所や面積の確保	・屋上面が比較的広く、太陽光設備の設置場所を広く確保できる	
(4) 安全性	施設安全	耐震性	増設部分	・必要保有水平耐力係数 Ⅱ類係数1.25の確保	・Ⅱ類係数1.25(Is値0.75) 基準を遵守して設計する
			既存部分	・耐震性能Is値0.6の確保及び耐震性能Is値0.75の確保	・過去の、耐震補強工事の補強計画において、Is値0.75を満たすよう計画されている(再診断を推奨)
	防災拠点	防犯性	・施設内に死角がなく見通しが良いか ・敷地周辺の外構計画の内容やセキュリティー区分が明確になっているか	・敷地内に狭隘な部分があり防犯性を高めにくい ・施設形状がやや複雑で見通しが悪く防犯性を高めにくい	
防災性		・防災危険区域に指定されているか	・浸水想定区域指定無 ・曾根丘陵断層群に立地 ・避難場所に多数近接		
(5) 機能性	施設機能	市民交流性	・交流施設(広場・公園等に隣接)が敷地周辺に有るか 施設内に確保しやすいか	・中央公民館、保健センター等との連携可能 ・1階面積が広いため、確保しやすい ・エントランス付近に確保しやすい	
		フロア構成ゾーニング	・認識性(わかりやすさ) ・空間のゆとり ・各機能の効率性	・平面的な広がりがあり、機能の配置構成がしやすい ・利便性の良い1階スペースが広い	
		動線案内・窓口機能	・利便性(誘導・明快等)、集約性	・駐車場とアクセスしやすいが、敷地内に高低差が生じる ・既存部分との接続に高低差があり、アクセスしにくい ・案内・窓口機能を増設部分1階に集約できる	
		バリアフリー	増設部分	・バリアフリー基準が遵守できるか	・基準を遵守して設計する ・エレベータ設置
既存部分	・ユニバーサルデザインが配慮できるか		・エントランススロープ有り(高低差600mm程度) ・エレベータ無し(階段に昇降機有り) ・増設部分との渡り廊下に高低差が生じる		